【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京都府

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	大宮町立大宮第二小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	１	７	１２
児童数	２０	２７	２０	２１	１５	３１	２	１３６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

算数の世界を楽しみ、豊かに生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・全学年・算数
　基礎学力診断テストおよびＣＲＴテストの結果、全体に芳しくない傾向が見られた。特に「数学的な考え方」の部分に弱さが見られた。その要因として、文章の読解が正確にできていないことや、自ら図示化して考える力、具体物を操作して問題解決する力の不十分さが考えられる。
　この実態から、算数における基礎基本の定着を図り、「確かな学力」を付けることの必要性を強く認識させられ、今年度は低学年からの個に応じたきめ細かな指導の積み上げを大切にし、算数科を重点に、全学年で研究を進めることにしている。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度

○　テーマ
　算数の世界を楽しみ、豊かに生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成

○　研究の見通し
（１）より個に応じた指導が可能な習熟度別少人数指導、算数的活動を取り入れた授業、教材教具の工夫等をすることで、一人一人に「確かな学力」を付けさせることができるのではないか。

（２）評価規準を明確にし、評価と指導の一体化を図ることにより、一人一人に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないか。

（３）特設の学力充実時間を設定することにより、基礎基本の定着が図られるのではないか。

（４）算数の世界を楽しむ心を育てる取組は、児童の学ぶ意欲や自ら課題を見つけ主体的に学ぶ力等を、向上させるのではないか。

○　研究の内容・方法

１　個に応じた指導の工夫
（１）習熟度別少人数指導
　　～一人一人が自分に合ったコースで力を伸ばしていく～
　ア　パワーチェックテストの実施
　　新しい単元に入るにあたり、既習内容がどれだけ定着しているかパワーをチェックするために行う。

イ　コース設定
テスト結果を参考に教師側で設定
（例；「基本・標準型」「基本・発展型」等）

ウ　コース選択
児童自身がコースを選択する。

エ　コース別学習のスタート
担任と少人数加配による２コースで、コース名を工夫したり、使用教室や担当教員が固定しないよう配慮している。
習熟度別少人数指導を児童はどのように感じているかアンケート調査をした。「すき、どちらかというとすき」「わかりやすい」が増え、「先生に質問しやすくなった」「手があげやすくなった」「ていねいに教えてもらえ、わかりやすい」という意見が多くなった。

（２）授業実践
「思い出に残る授業展開」「発見と感動のある授業」を目指し、日々の算数授業において、また校内での研究授業において、問題解決型学習も基本にすえた算数的活動を重視し、そのために教材の開発・展開の工夫に取り組んでいる。

（３）指導に生かす評価の工夫
ア　評価規準の作成
１時間毎の評価規準を算数全単元について作成した。「十分満足できるＡ」「おおむね満足できるＢ」「努力を要する児童への手立て」を具体的に明記し、授業と評価に活用している。

イ　児童による自己評価
１時間１時間の形成チェックと児童の意欲を高めることをめあてに振り返りカードで自己評価させる。

ウ　教師による評価
当初、評価規準表のＡ規準にあたる児童についてのみ考え方を問うような場面でどのような考え方をしていたか、どんなことに気付けていたかを記録していた。今後、評価規準のコピーを持ち、メモのようにして「Ａ」「Ｂ」「手立てを要する児童」のようすを書き込むようにして大いに活用できるよう企図しているところである。

エ　評価の分析を生かす取組
各種テスト（朝ドリルまとめテスト、パワーアップ形成テスト、学力診断テスト）の分析 をしっかり行い、校内研修会で交流し、課題回復に向け補充プリント・発展プリントを作成し授業や授業外の取組に生かしている。

２　学力充実時間の設定
（１）朝ドリルの取組
週３日（月、火、金）１５分ずつ、月ごとに単元を決めた基礎基本となる問題の習熟に取り組む。月末にまとめテストを行い、採点、分析する。

（２）特設指導の時間「パワーアップタイム」
主に文章問題、数学的な考え方を必要とする問題の習熟に力を入れている。どの学年も週１時間のパワーアップタイムを設定し、２～３名体制で指導に当たる。

（３）放課後補習
「朝ドリル問題」「パワーアップ問題」の回復指導のため、日常的に担任が行う補習とは別に放課後補習（複数体制）を行う。

３　算数の世界を楽しむ心を育てる取組
（１）算数コーナー、算数パズル
算数に関わる掲示物を展示するコーナーを設け、自主的に楽しく算数問題に取り組めるプリントも用意してある。プリントは少人数加配が採点し、児童各自のがんばりを朝会等で紹介する。

（２）算数おもしろ講座
　少人数加配が中心になり、朝会の時、月に１～２回のペースで算数にまつわる楽しいエピソード、クイズを１０分程度全校児童に話している。児童はたいへん楽しみにしている。

（３）算数コスモス
　総合的な学習の時間の５時間分を教科発展型の「算数コスモスタイム」として位置付けている。たとえば学校プールの容積を調べようと、自ら課題を見つけ、解決の方法を考え、実測して計算し、まとめて発表するという活動を行い、自らの算数の世界をいっそう豊かにし、問題解決能力を高めていった。

４　家庭・地域との連携
（１）学力診断テスト
　全教職員による研修会で、基礎学力診断テストやＣＲＴテスト及び各取組で行う形成テストの分析を通し、個々の児童や学級、学校の傾向を把握することにより、展望を持った授業改善、教材の工夫を行う。

（２）研究に関わるアンケートの実施
　児童へのアンケート（年間３回実施）、保護者へのアンケートから、各取組に対する児童や保護者の気持ちを把握し、その後の取組にも生かす。また、その結果を通信で紹介する。

（３）通信「さんすうだいすき」の発行
　学校の取組、授業の様子、児童の反応などを保護者や地域に知らせ、理解を深めてもらった。

平成16年度

○　テーマ
　算数の世界を楽しみ、豊かに生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成

○　研究の見通し
（１）より個に応じた指導が可能な習熟度別少人数指導、算数的活動を取り入れた授業、教材教具の工夫等をすることで、一人一人に「確かな学力」を付けさせることができるのではないか。

（２）評価規準を明確にし、評価と指導の一体化を図ることにより、一人一人に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないか。

（３）特設の学力充実時間の設定や、学習規律の見直し、家庭学習の充実により、基礎基本の定着が図られるのではないか。

（４）算数の世界を楽しむ心を育てる取組は、児童の学ぶ意欲や自ら課題を見つけ主体的に学ぶ力等を、向上させるのではないか。

○　研究の内容・方法

１　個に応じた指導の工夫
（１）習熟度別少人数指導
　～一人ひとりが自分に合ったコースで力を伸ばしていく～
ア　パワーチェックテストの実施
　新しい単元に入るにあたり、既習内容がどれだけ定着しているかパワーをチェックするために行う。

イ　コース設定
　テスト結果を参考に教師側で設定
　（例；「基本・標準型」「基本・発展型」等）

ウ　コース選択
　児童自身がコースを選択する。

エ　コース別学習のスタート
　担任と少人数加配による２コースで、コース名を工夫したり、使用教室や担当教員が固定しないよう配慮する。

（２）授業実践
「思い出に残る授業展開」「発見と感動のある授業」を目指し、日々の算数授業において、また校内での研究授業において、問題解決型学習も基本にすえた算数的活動を重視し、そのために教材の開発・展開の工夫に取り組む。

（３）指導に生かす評価の工夫
ア　評価規準の見直し・活用
　評価規準の見直しを年度初めに行い、「努力を要する児童への手立て」等、児童の実態にあったより具体的なものにしていく。

イ　児童による自己評価
　１時間１時間の形成チェックと児童の意欲を高めることをめあてに振り返りカードで自己評価させる。

ウ　教師による評価
　評価規準のコピーを持ち、メモのようにして「Ａ」「Ｂ」「手立てを要する児童」のようすを書き込むようにして大いに活用できるようにする。

エ　評価の分析を生かす取組
　各種テスト（朝ドリルまとめテスト、パワーアップ形成テスト、学力診断テスト）の分析 をしっかり行い、校内研修会で交流し、課題回復に向け補充プリント・発展プリントを作成し授業や授業外の取組に生かす。

２　学力充実時間の設定
（１）全校朝読書の取組
週３日（月、火、木、）　８：３０～の１５分間

（２）算数タイム
週５日（月、火、水、木、金）５校時開始前の１０分間
月ごとに単元を決めた基礎基本となる問題の習熟に取り組む。
月末にまとめテストを行い、採点、分析する。

（３）特設指導の時間「パワーアップタイム」
主に文章問題、数学的な考え方を必要とする問題の習熟に力を入れる。どの学年も週１時間のパワーアップタイムを設定し、２～３名体制で指導に当たる。

（４）放課後補習
「朝ドリル問題」「パワーアップ問題」の回復指導のため、日常的に担任が行う補習とは別に放課後補習（複数体制）を行う。

（５）国語力の充実
金曜日の朝ドリル時に国語の内容で取り組む。

（６）学習規律の見直し
生きる力のための基本的な生活習慣の向上、確かな学力の定着をねらい、発達段階に応じた学習規律と次学年への系統を共通理解する。
また、学習に向かう姿勢として、大切に指導する。

（７）家庭学習の充実
家庭学習の役割について教員で共通理解をしながら、基礎基本の確かな定着のための課題を充実する。

３　算数の世界を楽しむ心を育てる取組
（１）算数コーナー、算数パズル
算数に関わる掲示物を展示するコーナーを設け、自主的に楽しく算数問題に取り組めるプリントも用意する。プリントは少人数加配が採点し、

児童各自のがんばりを朝会等で紹介する。

（２）算数おもしろ講座
少人数加配が中心になり、朝会の時、月に１～２回のペースで算数にまつわる楽しいエピソード、クイズを１０分程度全校児童に話す。

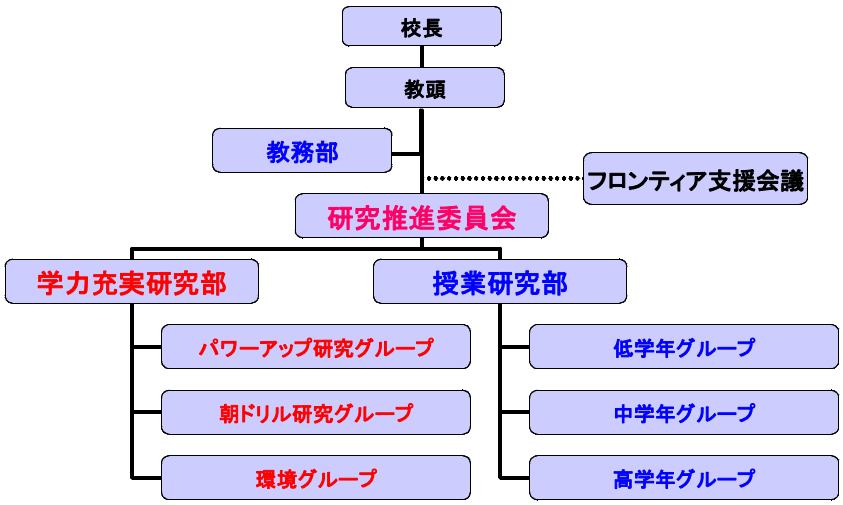
（３）算数コスモス
総合的な学習の時間の５時間分を教科発展型の「算数コスモスタイム」として位置付ける。

４　家庭・地域との連携
（１）学力診断テスト
全教職員による研修会で、基礎学力診断テストやＣＲＴテストおよび各取組で行う形成テストの分析を通し、個々の児童や学級、学校の傾向を把握することにより、展望をもった授業改善、教材の工夫を行う。

（２）研究に関わるアンケートの実施
児童へのアンケート（年間３回実施）、保護者へのアンケートから、各取組に対する児童や保護者の気持ちを把握し、その後の取組にも生かす。また、その結果を通信で紹介する。

（３）通信「さんすうだいすき」の発行
学校の取組、授業の様子、児童の反応などを保護者や地域に知らせる。

(3)　研究推進体制



・パワーアップタイム（特設の補充時間）には、２～３名体制で指導にあたり、よりきめ細かで個に応じた指導を目指している。
・全校的な放課後補習の時間にも、担任＋１，２名の指導体制を組んでいる。
・３～６年生では、担任＋少人数加配による習熟度別コース学習を実施している。
・パワーアップタイム、朝ドリルの問題作成、採点、分析等、学校体制の中で系統的に行っている。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

ア　習熟度別少人数指導により、個々の活躍，発表の場の増加、課題のある児童への対応の充実等が生まれ，学習効果が上がった。
イ　分析をもとに、より実態に応じた指導方法を模索してきた。
（操作活動による問題解決学習、ヒントカード・ヒントコーナーの活用、図や表・線分図の工夫、実物の活用法、発表ボードの活用等）
ウ　基礎学力診断テストおよびCRTテストの分析をしたことが授業に生かせるための手立てとして、単元別の問題集を作り、新しい単元に入る前に本校の実態を確認する等、活用している。
エ　各学年とも，新しい教具の開発、活用に努力し，研究を進めることができた。
オ　分析に基づいた補充学習と、指導後の分析をしっかり行うことにより、児童の学力の高まりを確認しながら指導をすることができた。
カ　パワーアップタイムは、自分のペースで進める学習となり，児童が意欲的に取り組めた。練習量も増え，基礎学力の定着につながった。さらに、複数体制（2～3名）により、つまずきの大きい児童へのきめ細かな対応ができた。
キ　放課後補習では，理解の状況が不十分な内容を再度指導することによって、プリント等を満足して終了する児童が多く見られた。この満足感と確かな理解が次の授業にも生かされた。また、日常的に各学級で補習を計画し，きめ細かな指導ができた。
ク　「算数コーナー」「算数おもしろ講座」等の取組は、算数が日常の中に位置付いたり、話題になったりし、児童の関心，意欲を高め，算数の世界を楽しむことのきっかけとして効果的であった。
ケ　通信「さんすうだいすき」を発行し、学校の取組、授業の様子、児童の反応などを保護者や地域に知らせることができた。

２．今後の課題

ア　基礎学力診断テスト、CRTテストの分析を踏まえた更なる授業改善
イ　各コースにあった指導方法の工夫と教材開発
ウ　児童が興味を持ち、単元のねらいや生活と結び付くような教材、教具の開発
エ　パワーアップタイムのより効果的な指導（採点方法の工夫・残ったプリントの活用法）
オ　放課後補習の指導時間や指導体制の工夫
カ　指導に生かす評価の工夫
（児童がやってよかったと思える自己評価や次への意欲付けにつながる振り返りカード、授業の中でどのように評価をするのか具体的な方法の研究）
キ　研究体制の見直し

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・朝ドリルのまとめテストの実施と結果の分析交流
目的：朝ドリルで１ヶ月取り組んだ単元の定着度を把握するとともにその後の補充指導に役立てる。
内容：今月の単元
時期：毎月末（12 月、２月は単元別まとめテストを毎日実施）

・パワーアップタイムでの形成テストの実施と結果の分析交流
目的：課題が見られた単元及び内容の回復状態を把握し、補充指導を行う。
内容：各学年での課題のある単元及び内容
時期：４週間毎に１回

・独自の単元別まとめテストの複数実施
目的：単元別まとめテストの複数回実施により、継続的に定着しているかどうか児童一人ひとりの実態を把握し、その後の補充指導に役立てる。
内容：全学年の単元別のまとめ
時期：１２月、２月・・・朝ドリルの時間帯に実施

・算数アンケート
目的：児童の算数に対する関心・意欲、コース別学習をはじめ各取組への思いを調査し、今後の実践に活かす。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

＊　算数科教育研究発表会　一年次

日　時　　平成 15 年 11 月 28 日（金）
　　１３：４５～１４：３０　　１，２，３年公開授業
　　１４：４０～１５：２０　　全体会
　　１５：３０～１６：３０　　分散会

場　所　　大宮第二小学校

対　象　　丹後管内各小・中学校学力推進委員等

会の目的　　実践研究の取組状況、成果、課題等を公開授業を通して、丹後管内の小・中学校に報告をし、指導、助言を賜るとともに、今後の教育実践に生かす。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ６学級以下　☑ ７～１２学級
□ １３～１８学級　□ １９～２４学級
□ ２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　□ Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☑ 算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無